

同窓会の事業（研究会・趣味の会、同窓生の集い・広報）(学生支援)(IoT&AI研究会のWG活動)

2024年10月作成

趣味の会・研究会		主委員	2025年度活動計画（2024年10月～2025年9月）	2024年度活動実績（2023年10月～2024年9月）
ゴルフ会		佐伯 伊藤	①次の通りゴルフコンペを計画する ・例年通りの4月の第2木曜日の2025年4月10日(木)予定 ・会場についてはアンケート結果により昨年度の川越CCから、おおむらさきゴルフ倶楽部へ変更予定。但し予約申し込みは12月から。 ②例年同様費用計上はゼロ ③告知の時期及び実施形式については昨年同様としてメーリングリストに登録されている方についてはDMを発信し、一般募集については理工学部同窓会のポータルにて行う	2024年4月11日(木)に、川越カントリークラブ(埼玉県東松山市)にて開催しました。当日の朝は少し冷え込みましたが絶好のお天気に恵まれ楽しくプレーすることができました。 ソフィアンズカップにならいショートホールでワンオンしない場合はチャリティーとして、SOPHIA未来募金の「理工学部同窓会奨学基金」に寄付をさせていただきました。
写真を楽しむ会		津川	撮影会を実施する事によりお互いの写真スタイルを理解し、2025年ASF「理系ソフィアンのつどい」にて会員全員の写真展示を目指す。また、会員増強の為、理工学部ブログに定期的に作品をアップデートしていく。	2024年ASF「理系ソフィアンのつどい」では、会員による投影作品につき意見交換実施。また、撮影会開催は会員のスケジュール合わず実現できなかった。
ビッグデータ研究会		井上	2025年度は活動を再開したい。先生を通じて、現役の学生や、以前参加してくれて社会人になった人にも声をかける。テーマとしては生成AIを積極的に取り扱っていく。	「リアルでの活動をメインに行っていく。現役の学生との関係が3年以上途絶えたため、矢入先生に新たに紹介してもらう。また、これまでに参加してくれた学生で社会人になった人にも声をかける。」という計画だったが、主委員の都合で活動できなかった。
IoT&AI研究会 当研究会には4つのWGがあり、それらの活動は別ページにして後に掲載しております		平井 鴨川	1.引き続きアジアグローバル展開でベトナムの大学と日本の大学、企業を結び付けたインターンシップ事業開発を継続推進。 2.オープンデータ系ソーシャルイノベーション系の複数のコンペに参加。 3.ミリ波関連、半導体AI関係では川崎新拠点の事業を軌道に載せる。 4.知的生産性を爆上げするデータサイエンス x 生成AIのワークショップや伴走型コーチングプロジェクトの事業化スタートアップを行い、産学官公民連携の社団法人の設立を支援、これまでの活動を集大成する。	1.活動をアジアグローバルに展開し、ミリ波応用や大規模自然言語処理を取り込んだ知的摘生産性を爆上げするPRJを推進し、次世代リーダー型人財発事業体制を構築していく。→支援企業の協力で川崎に研究開発拠点の設置を完了。 2.ベトナムDTU大学と同学内大日本国内にて本学他複数大学と学長レベル同士のリエゾン活動を実施。 3.オープンデータ関連のコンペLODチャレンジ2024他に応募。生成AI活用の試行を開始。 4.「自己実現の実現」プロジェクトで電子出版を実施。ワークショップ開催を共催。事務局構築を支援。
モビリティ研究会		宇野 濱畑	手を動かしモビリティを含めたビッグピクチャを描く。月1回の定例をベースに、リアルビジネスを念頭にした検討を継続する。加えて大学などとの会話を通じて人的ネットワークを拡大するとともに研究会としてのアウトプットに向けて方法などを模索する。	手を動かしモビリティを含めたビッグピクチャを描く。リモート月例、外出イベント、輪講等を通じ、リアルビジネスも念頭に検討継続および人的ネットワーク拡大。次回ASFのイベント企画化とアウトプットを目指す。

企業経営者の会	中山	①上智大学サリ理事長から経営者の会に期待すること ②上智大学学長から新学長として理工学部期待すること ③経営者を目指す皆さんへ ・京セラ代表取締役社長への道のり：谷本秀夫 ・ゼロから出発と創業50年そしてこれからの50年：(株)ケミトックス中山紘一 ④経営者の会援助による博士奨学生の研究発表（3人の発表者） ⑤来年2025年7月に4人目博士奨学生の誕生	ASFに参加した。
---------	----	---	-----------

広報・同窓生の集い	主委員	2025年度活動計画（2024年10月～2025年9月）	2024年度活動実績（2023年10月～2024年9月）
メールニュース ホームページ （情報発信）	岸本 阿見	2025年度も基本的には従来方針に従って4回／年の定期配信を行う計画である。 同窓会事業・活動状況の情報発信を一層充実化すると共に、大学・理工学部からの情報発信も加えながら、2025年初からスタートする新ホームページと効果的にリンクさせて同窓会会員との重要なコミュニケーションツールとしての活用も図る。	2024年度も四半期ごとの4回／年、同窓会会員にメール発信を実施し、併せてホームページにも掲載して同窓会活動の情報共有化を行った。 今年度より大学・理工学部からの同窓会会員向けメッセージの発信も開始し、併せて同窓会事業・活動状況の情報発信を一層充実化した。 また、ホームページとリンクさせることで同窓会会員との情報共有ツールとしての活用も充実化した。
理系ソフィアンのつどい	津川 矢部 佐伯	2025年度の基本路線は2024年度と同様とする。 ただ2024年の反省を踏まえまずは詳細な役割分担を決める。各理事の負担を極力少なくする為に理事全員参加を目指す。更に「理系ソフィアンのつどい」の担当理事で各役割を依頼した作業の準備状況の把握を着実に図って行く。	役割分担を決め各理事に念押しして役割を着実に認識して貰い準備を進められた。更に「理系ソフィアンのつどい」を進めて行く担当理事3人にて作業の準備状況の確認がスムーズに図れた。
同窓生のネットワーク	川端	・2026年に節目年を迎える各祝対象者（2027年2月祝典）と卒業1年目と7年目の卒業生へ2024年度と同様に同窓会活動の案内送付を実施していく。 ・会員の交流を促進するため、終身会費納入者を含め広く一般会員に会員大会への参加を促し、その交流の機会を組み込むことを継続して実施する。 また、延期した若手理工ソフィアンの集い（卒業後1年目～10年目）を2024年11月に開催する。 ・2025年度理工若手ソフィアンの集い第3回を開催する。 ・新たな会員ネットワーキング施策の検討を行う。 （学科代表者との会議開催、その他）	2025年に節目年を迎える各祝対象者（2026年2月祝典）と卒業1年目と7年目の会員へ同窓会活動の案内送付を実施した。 あらたに、終身会費納入者を含め広く一般会員に会員大会への参加を促し、その会員大会の中での交流会を実施した。 第2回若手理工ソフィアンの集いを対象を卒業後1～10年目に範囲を広げて計画をした（成果として20名から参加応募が来た）が台風のため実施を2025年度に延期。

学生支援事業	主委員	2025年度活動計画（2024年10月～2025年9月）	2024年度活動実績（2023年10月～2024年9月）
関係講座 つくるⅠ	藤井 黒江	本講座では、最近の社会の動きをに伴ってスタートアップ、ベンチャーキャピタル、AIなど、大きな展開を実際に担っている卒業生が講師になるケースが見られる。これらの分野については学生達は知ってはいても、中々自分のこととして捉えるまではいいていないと見受けられる。 2025年度ではこのような分野もさらに取り込めるように広い範囲で卒業生を見つけられるようにできればと考える。	連携講座とは理工学部同窓会により講師として卒業生を推薦し、理工学部により実施される全学共通のキャリア形成科目である。 「つくるⅠ」（秋学期）は卒業生によるキャリア形成に関する事や仕事における経験談等を1人1コマ（100分）ずつ講義する科目である。 2024年度も講義12回分で12名の卒業生を講師として紹介した。
関係講座 つくるⅡ	藤井 竹原	2024年度と同様に、株式会社キッツと株式会社FRONTEOの2社様のご協力を頂き、授業を行っていく。実社会で出会う問題解決型の授業であるので、履修者数を増やすための施策を検討する。 同窓会からの支援を増やすべく2025年の4月までに体制を整えたい。	つくるII(秋学期)は、協力企業が持つ実際の課題を提供してもらい、学生が調査・研究・グループ討議を通して主体的に講義に参加するPBL方式の実践的な講義です。最終講義にて、各グループが解決案を協力企業にプレゼンテーションし、講評をいただきます。 株式会社キッツ様と株式会社FRONTEO様にご協力を頂いた。
関係講座 Technology & Innovation	藤井 近藤	2024年度と同じ講師の方々をお願いする。タイトルは次の通り ○ Innovation and Regulation in the field of Medical Devices ○ Next generation mobility: technology, deployment and rule making ○ The Basis for Space Technology and Business ○ How to become a technology architect in the IT industry	「Technology & Innovation」（春学期）は理工学部英語コースの留学生向けに行っている科目である。「つくるⅠ」のキャリア形成的内容を留学生にも提供し、同時に専門的な内容も加えた連携講座である。数名の講師が複数コマずつ担当して英語により講義を行う。 本年度は4名の講師を紹介し、講師1名につき3コマずつの集中講義を行った。
理工系 OBOG懇談会	藤井 川端	ASF"理系ソフィアンのつどい"で「OGと学生の懇談会」を開催する。 十分な数（20名以上）の学生参加を目指して、理工学部への協力依頼および広報活動を行う。	江南理事、北村委員とともにプロジェクトを立上げ、2025年「OGと学生の懇談会」準備に着手。2025年のASF（5/25）にて開催。4名のOGの方々に承諾を得た。
奨学金 ＜同窓会奨学基金等を原資として＞	藤井 澁谷 高井	2025年度についても、奨学金は短期海外研修（英語）と早期卒業制度を利用した博士課程への進学支援の2つを柱に学生支援を行っていく。 2024年度に引き続き、早期卒業制度を利用して、この奨学金に応募資格する学生もあり、上智大学出身の博士課程の学生を増やすべく、学生支援を続ける予定。	1. 春期（ノースカロライナ大学シャーロット校）と夏期（カリフォルニア大学デーヴィス校）で行う短期海外研修（英語）の費用の一部支援のための奨学金。夏期は4名に奨学金（1人につき8万円）が給付された。 2. 早期卒業制度を利用して博士課程への進学を目指し、短期間で学位を取得しようとする学生に給付する「早期卒業制度を利用した博士課程進学支援」奨学金。前年度より1名多い2名に各50万円が給付された。

IoT&AI研究会	主委員	2025年度活動計画（2024年10月～2025年9月）	2024年度活動実績（2023年10月～2024年9月）
脳・心と智の融合研究WG	松井 平井	1. コアメンバーの体調問題があり、実質作業が進めなかったものを継続推進する。特に川崎拠点での研究開発体制を整えられる様、資金面での支援や、論文発表化を進める。 2. 過去のデータセットを活かしマルチチャンネル脳波計でも深層部の脳の各領域の同期関係～状態推論ができないか、脳磁計が費用などで再稼働できなくてもやれる研究開発手法を発見する。 3. これまでの各種プレゼン資料を投資家向けに、又国のPRJに再度取り込んでもらえる戦略企画資料を作成する。 4. 現在は中国に於けるケアマンションのプロジェクトに組み込めないかの検討をスタートした。	1. 脳磁計PRJ-社団法人の体制見直し。PRJファイナンスの情宣活動に注力。東北大目黒先生逝去に伴う体制見直し、玉川大学塚田先生、マーズなど等の協働研究体制再構築。→メンバーの体調不良の問題があり実質活動は半休止状態。 2. 上智大の高尾研究室のノンヘリウム型強磁界電磁シールドの応用可能性を調査研究。→同理由で次年度へ延期。 3. 松井式ミリ波トランシーバーモデルの原理実験モデル→製品プロト化に向けた体制構築。→ベトナムDTU大学への企画提案を含め方向性は定めた。 4. サードパーティ提供のミリ波センサーによる製品プロト開発とマーケティング活動の実施。クラウドファンディングの利用と、他のWGグループと連携した認知症、コロナ禍後遺症の研究
Sophia Sound & ASTEM研究WG	鴨川	1.ASF2025開催を行う。 2.ミリ波技術を使った応用映品は市場にでているものを活用したものをプロトタイプングして資金調達ができるようにする。動物センサー系で進めるが実際は人間系の、見守りモニタ分野での商品化をも座す。 3.脳型コンピュータ分野ではTDKのメモリスタによる方式を田中先生と、全欧アーキテクチャ系とを連携する。アーキテクチャデザインの参考となる書籍の輪読会に参加。 4. データサイエンス x 生成 A I によるアブダクションエンジンを開発、そのデザインの為のワークショップを開催して年度内にモデルをつくりあげる。これらをアジアングローバルでやる体制構築を行う、	1. ASF202421世紀型人財育成に関するフォーラム開催。→実施 2. ミリ波応用の製品プロトの開発と提示、商品化事業者とPRJファイナンス活動。→企画構想は纏まったが、スポンサー企業との調整がつかず次年度へ回す。 3. 田中先生の脳型コンピュータアーキテクチャモデルのMATLABによるシミュレーション展開。→次年度へ先送り。 4. 同分野に於けるカリキュラム開発とベトナムを始めとするアジアングローバル展開の中で、上流設計にAIを導入、自動コーディングなど知生産性爆上げに関する新PRJを発足させる。→知的生産性を爆上げするFBコミュニティを設置、調査を含めた先行事例からどのようにすればいいかの事例検証ができた。アライアンス事業でツール開発が完了。

Open Innovation 研究WG	鴨川	1. LODチャレンジ2024の応募内容を発展させて、COGチャレンジ2024、アーバンデータチャレンジ、ナレッジグラフ推論チャレンジ2024などへワークショップ成果を発展させたものを応募する。 2. ワークショップはオリエンテーションコース（経営者向け、実務者向け）を実施その後、案件ベースのPBLコースを設ける。本コミュニティに於けるTotal Well Beingに対する個別PRJで生成AIをユーザー事業者自身に取り込めるような教育サービス事業をアジアグローバルに行う。 3. ワークショップ解析の為にマルチカメラWEBミーティングや研修を行うための環境開発と推進事務局をオンラインビジネスサポート会社と契約を結び事務局体制を整備する。	1. LODチャレンジ2024コンペ応募。テーマはコロナ問題、予防医療介護関連等多数。→テーマ名を「統合幸福オントロジーによる統合データセット開発」に変更。 2. 日本経済復活の会関連、刊行物PRJ,映像情報発信PRJにて情宣・告知活動を実施。→連携するB I 研究コミュニティの電子出版事業に参加、B S / B I と社会システムデザインのあり方のレポートを作成。 3. 様々なシミュレーション開発手法をドキュメント化し、教材として提供。LOD 2024 / chatGPT始め大規模自然言語処理と数理モデルの結合を行い、情報・数理・コミュニケーションデザインの手法を体系化し、「先生支援システム」のバージョンアップを行い、状況認識を人間の様に出来る進化学習型AIのプロトモデルを開発する。→この考え方に対応するデータセットと設計の考え方を求め、ナレッジコネクトへ投稿。生成AIの活用を開始。
SDGs ×新社会 システム& サービス コミュニケーション OSデザイン研究WG	鴨川	1.アライアンスしている日本経済復活の会の活動を纏め、各政党に財政均衡と経済成長が両立する仕組みの提案を提出を進めている。同時に公共貨幣に関する輪読会の第二セッションを行う。 2. ベーシックインカム・サービス問題に関する提案を連携している同コミュニティとは違う切口で執筆、電子出版を予定。ワークショップでそれを教材として、閉そく状態の日本から脱却するための提案と民間シンクタンク化を図る。 3.関西大学が2025年4月に発足するビジネスデータサイエンス学部とも交流する。 4.その一連を含めたシンクタンク設立を行う、本学のデータサイエンスの修士過程関係者との交流を図る。幸福学に関するテーマではソフィア会全体とも交流を図る。	1. SDGs 関連のメンバー3000人、地域通貨umoのメンバー6000人のメンバーによる新経済圏の実験コミュニティを設立。そのビジネスモデリングと事業試行を行う。→月1階のトークセッション、毎週月曜日のスタッフミーティングを実施、社団法人化を踏まえて組織構造（案）を定めた。 2. 複数のモデルPRJの運営開始。Site65 PRJ(産業プロフェッサー制度)、健康経営PRJ(介護離職ゼロ化)、新社会システムOSのアプリケーション(食料自給、安全保障、予防医療介護、ビヨンドコロナ、修復医療、唯意識学、ヨ・ニドラー瞑想など多数テーマあり)。→ワークショップ形式で運営する為の体制づくり事務局を設置。 3.活動成果と過程のコンテンツ化、情報発信—シビルメディアチャネルの立ち上げ→ワークショップ運営のためのGウェアサイトを設置。幾つかの環境をも久手駅別に設置。